

1 教育目標（目指す児童像含む）

(1) 基本目標

「人間尊重の教育」を基盤として、地域の特性や児童の実態を踏まえ、社会の変化に主体的に対応できる知・徳・体の調和のとれた心豊かでたくましい南の子の育成に努める。

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

南の子 なかよく かしこく たくましく

○なかよく……なかよく助け合い きまりを守る子(思いやり・規範意識・人権意識)

○かしこく……進んで学びよく考え自分の言葉で表現できる子(自主性・創意・コミュニケーション力)

○たくましく……明るく元気に粘り強くやり遂げる子(明朗・勤労・耐性・自己有用感)

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

合言葉「笑顔いっぱい あいさついっぱい やる気あふれる南小」 今年度のキーワード「笑顔」

(1) 「児童が笑顔になる学校」

・学ぶ楽しさのある学校 ・居がいのある学校 ・安心して通える学校

(2) 「教職員が笑顔で働く学校」

・チームで働く学校 ・教職員も成長し続ける学校 ・ウェルビーイングな学校

(3) 「保護者・地域とともにある学校」

・保護者・地域と連携・協働する学校

3 学校経営の方針（中期的視点）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印

「児童が笑顔になる学校」

- (1) 児童一人一人が自分のよさを発揮し、学校生活への充実感や自己有用感、自己の成長を感じることでできる学校づくりに努める。
- (2) 基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を育み、主体的に学習に取り組む態度を育てることに努める。
- (3) 教育活動全体を通して、人権を尊重する心、人を思いやる心、規範意識などを育むとともに、夢や目標に向かって粘り強く努力し続ける心と体のたくましさの涵養に努める。
- (4) 児童一人一人の悩みや不安、ニーズ等を把握・共有し、児童指導上の諸課題に組織的に対応することで、安心して過ごせる学校づくりに努める。

「教職員が笑顔で働く学校」

- (5) チーム力の向上を通して教職員が同僚性と協働性、キャリアステージや職種に応じた力を発揮することで、組織的、計画的な教育活動の推進に努める。
- (6) 教育者としての使命感を自覚し自己・相互研鑽に励むことで、人権意識の高揚と指導力の向上に努める。
- (7) 教職員一人一人のモチベーションやメンタルヘルスを保持しながら、最大限の力を発揮できるように業務の改善と勤務時間を意識した働き方改革を推進する。

「保護者・地域とともにある学校」

- (8) 学校運営協議会の試行的導入事業を活用し、地域と学校の組織的な協働体制の構築を図る。
- (9) 積極的な情報発信、地域の教育資源を活用した教育活動の充実などにより、保護者・地域と連携・協働した学校づくりを推進する。
- (10) 地域学校園の連携を図り、児童生徒・教職員の特徴・よさを生かした教育活動を推進する。

〔雀宮地域学校園教育ビジョン〕一人一人が自らのよさを自覚し、主体的に学ぶ児童生徒の育成
～いきいきとした活動を通してつながる～

4 教育課程編成の方針

- (1) 学校教育目標の具現化を図るため、学校経営方針や学校評価・学校課題・児童の姿や地域の現状などを踏まえ、また、前年度の教育課程実施の反省や地域・保護者からの意見等を十分に考慮し、社会に開かれた教育課程を目指して編成する。
- (2) 児童が明るく楽しく生き生きと取り組める特色ある学校づくりを目指し、異学年間交流活動や児童による主体的活動の推進と、地域外部人材を活用した意図的・計画的な実践化を図れる教育課程の編成に努める。
- (3) 社会の多様化やグローバル化、超情報化、SDGs等の複雑化する現代社会の諸課題に対応し、持続可能な未来を創る担い手として必要な資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）を、教科等横断的な視点で育成していく教育課程の編成に努める。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印

- (1) 学校運営
- 児童一人一人のがんばりやよさの見取り・共有や活躍の場の意図的な設定などによる、認め励ます教育の一層の推進
 - ・ 道徳教育・人権教育の充実を通じた豊かな人間性や他者を思いやる力の育成と目標に向かって粘り強く取り組むたくましさの涵養
 - ・ 質の高い教育活動を目指し、教職員が自ら学び続ける学校風土の確立（校内研修・一人一授業の充実）
 - ・ 教職員が生き生きとやりがいをもって勤務するための業務内容と勤務時間の効率化と適正化
 - ・ 積極的な情報発信による保護者・地域との信頼関係の構築と、地域の教育力を生かした特色ある教育活動の展開
- (2) 学習指導
- ・ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進
（ねらいを明確にした授業デザインの構築、協働的な学びの場の設定・ICTの効果的活用）
 - ・ 学ぶ意欲を高め、学ぶ喜びを感じられる問題解決的学習の充実
（実生活との関連を図った課題の設定、できる・分かる・楽しい授業・教科横断的な学びの推進）
 - 基礎・基本の定着と家庭学習の習慣化に向けた取組の工夫
（朝の学習の充実、習熟度学習・教科担任制の推進・家庭学習強化週間の実施）
- (3) 児童生徒指導
- ルールやマナーがあるよさを実感し、進んで守ろうとする意識と態度の醸成
 - 明るいあいさつや、時と場に応じた正しい言葉遣いを身に付けられるようにする指導の充実
 - ・ 自己有用感を育み、互いのよさを認め合う、居がいのある学級づくりの推進
 - いじめ等の問題行動や不登校の未然防止・早期発見と発生時の組織的対応
（保護者・関係機関との連携、一人一人に寄り添う適切な指導・支援の実践）
- (4) 健康（体力・保健・食育・安全）
- ・ 自分の運動能力や体力への関心をもち、進んで運動に取り組もうとする態度の育成
 - 健康に関する知識を正しく理解し、健康で安全な生活を営んでいこうとする意欲の向上
 - 自分で決めた目標に向け、粘り強く取り組む心と体のたくましさの涵養
 - 自らの食生活を振り返り、望ましい食習慣の形成に向けて自ら改めようとする態度の育成
 - ・ 安全を心掛け、自ら危険を予測して回避するための判断力・行動力の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性 A拡充 B継続 C縮小・廃止」

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印

| 第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策 | 評価項目 | 主な具体的な取組 | 方向性 | 評価 青字：指標より高い数値 赤字：指標より低い数値 |
|-------------------------|--|--|--------|--|
| 1-（1） 確かな学力を育む教育の推進 | A1 ○児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 児童の肯定的回答 85%以上 | ① 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した南小学習モデル「問い」→「見通し」→「自力解決」→「共有」→「まとめ」→「振り返り」を確実に実践する。 ② 問いを設定する際は、課題解決に向けて、必要な情報を集め整理したり、他者と協働しながら考えたりし、児童の思考力の育成を図る。 | ◎ B | 【達成状況】 児童90.5% ・ 指標を上回った。一人一授業や要請訪問・総合訪問における研究協議・意見交換等を通して、指導方法や有効な手立てについて学び、日々の授業実践に生かすことができた。 【次年度の方針】 ・ 主体的に学習に取り組む児童の育成に向け、児童が学ぶ意欲や必然性を感じられるような課題設定や学習過程の工夫を図ることで、他者と協働しながら考えたり、学びを深めたりする力を育てていく。 |

| | | | |
|--|--|---|---|
| <p>1- (2) 豊かな心を育む教育の推進</p> | <p>A 20 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 児童の肯定的回答 85%以上</p> | <p>① 道徳や学級活動などの授業を通して、思いやりの心を育み、縦割り班活動等で実践できるようにする。 ② 学級内で思いやりのある行動をした児童を取り上げて、互いに称賛できるようにしている。</p> | <p>【達成状況】 児童 89.4% ・指標を上回った。縦割り班活動後の振り返りの時間や学級内での友達のよさ発見等の取組を通して、思いやりの心を育むことができた。 【次年度の方針】 ・日頃から、児童間で感謝の気持ちを伝え合い、互いを尊重し合えるような活動を取り入れたり、全職員が児童の良いところを見つけて称賛する場面を取り入れたりするなどし、児童の自己肯定感を高めていく。</p> |
| | <p>A 30 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 児童の肯定的回答 80%以上 教職員の肯定的回答 80%以上</p> | <p>① 自分で決めた目標に継続的に粘り強く取り組むことができるよう指導する。 ② キャリアパスポートを活用し、自分のよさや適性、将来の生き方を考えさせるとともに、身のまわりの仕事について調査するなど、自分や他者の生き方に関心をもたせる取組をする。</p> | <p>【達成状況】 児童 84.8% 教職員 100% ・指標を上回った。特に教職員評価は昨年度から 17.4 ポイント上回っており、改善の方向にある。 【次年度の方針】 ・引き続き、児童に明確な目標を持たせ、振り返りの場を設定し、達成感・充実感を味わい、自信につながるよう支援していく。</p> |
| <p>1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進</p> | <p>A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 児童の肯定的回答 85%以上 保護者の肯定的回答 85%以上</p> | <p>① 「交通安全教室」「避難訓練」「防犯訓練」等を定期的実施し、日常生活の中で考えられる危険やその対策について体験的に気付かせる。 ② 健康に関する知識を正しく理解し、進んで運動に取り組んだり、自らの食生活を振り返ったりし、望ましい生活習慣を図る態度を育成する。</p> | <p>【達成状況】 児童 86.6% 保護者 89.1% ・指標を上回ったが、児童・保護者ともに昨年度から 5 ポイント以上下がっており、指導の改善が望まれる。 【次年度の方針】 ・振りかえりをまとめたり、行事の写真を掲示したりしたものを、児童や保護者に知らせる機会をもつようにする。</p> |
| <p>1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進</p> | <p>A 50 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 児童の肯定的回答 85%以上</p> | <p>① いきいき班による異学年交流活動に積極的に取り組み、より児童主体の活動を目指して展開していく。活動を通して、児童・教職員間の信頼関係や仲間意識を高める。 ② 自分のよさや成長を実感できるようなキャリアパスポートへのコメントや児童への肯定的な声掛けを職員全員が意識して行うことで、児童一人一人が自分のよさを発揮し、学校生活への充実感や自己有用感、自己の成長を感じることができるようになる。</p> | <p>【達成状況】 児童 87.3% ・昨年は唯一指標を下回ったが、今年度は「自他のよさ」「他者とのかわり」を重要視して学校全体で取り組んできた結果、2.5 ポイント改善が見られた。 【次年度の方針】 ・仲間づくりタイムや縦割り班、行事等の活動を充実させ、より主体的な活動を促す。また、教師や友達からの声掛けを通して自分のよさや成長に気付けるようにし、自己有用感をさらに高められるようにする。</p> |
| <p>2- (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進</p> | <p>A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上</p> | <p>① 英語を使ったコミュニケーションを行う目的や場面を理解させるとともに、コミュニケーションできる場面の設定を工夫する。 ② A L T と連携を図りながら、コミュニケーションできる場面を多く設定する。</p> | <p>【達成状況】 教職員 95.7% ・指標を上回ったが、児童の評価は昨年度より 6.3 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・A L T と打ち合わせを密に行うことで、授業のねらいの共通理解を図る。 ・給食時に A L T に各クラスに入ってもらおう等、授業以外での A L T との関わりを増やすことで、児童が英語でコミュニケーションを図る機会を意図的に設けていく。</p> |

| | | | |
|--|---|--|---|
| | <p>A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 児童の肯定的回答 80%以上</p> | <p>① 宇都宮における人・自然・社会などについて様々な場面で意図的に触れさせ、興味・関心がもてる工夫をする。</p> <p>② 副読本や図書資料、教育機器等を活用して宇都宮について調べ学習できる場の設定を工夫する。</p> | <p>【達成状況】</p> <p>児童83.0%</p> <p>・指標を上回ったが、児童・保護者の評価ともに昨年度に比べ5ポイント以上下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・総合や社会科等を通して、宇都宮のよさを学ぶ機会の充実を図ることに加え、宮っ子ランチを通して宇都宮のよさに触れる機会を設けるなど、宇都宮のよさを、子どもたちが実感できるような機会を意図的に設ける。</p> |
| <p>2-(2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進</p> | <p>A8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上 保護者の肯定的回答 80%以上</p> | <p>① デジタル機器や図書館等における設備の充実を図るとともに、それらを活用したわかる授業を展開する。</p> <p>② デジタル機器や図書等を工夫して活用することにより、授業の改善を推進する。</p> | <p>【達成状況】</p> <p>教職員100% 保護者73.6%</p> <p>・指標を下回った。教職員と保護者の評価に乖離が見られる。今後、取組についての積極的な情報発信が必要である。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・授業時間に加え、調べ学習を家庭学習に取り入れることで、デジタル機器や図書資料に触れる機会を増やす。また、デジタル機器や図書資料の活用について、授業参観等を通して保護者に向けて公開する。</p> <p>・授業時のICTの活用について、ICT支援員と事前に打ち合わせを行い、ICT活用のねらいについて共通理解を図る。</p> <p>・司書と連携し、国語や総合等の教科を中心に、関連する図書資料を積極的に授業で活用していく。</p> |
| <p>2-(3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進</p> | <p>A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%以上</p> | <p>① 教職員が持続可能な社会やSDGsの考え方について理解を深め、図書資料、映像資料の活用し、授業等で話題に取り上げ児童に関心を高めさせる。</p> <p>② SDGsの内容を掲示し、「持続可能な社会」についての啓発を図る。</p> | <p>【達成状況】</p> <p>教職員87.0%</p> <p>・指標を上回ったが、学校生活での節電・節水など、日常指導については学級間で温度差が見られる。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・授業時間に限らず、給食の時間等、生活の中でSDGsの考え方に関連することを話題にし、児童のSDGsについての意識向上を図る。また、節電・節水など、日常の指導について、職員間で共通理解を図り、全校児童でSDGsへの関心を高めていけるような指導を行っていく。</p> |
| <p>3-(1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進</p> | <p>A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上</p> | <p>① 児童指導に係る研修や校内支援委員会を活用して情報収集・情報共有・共通理解を図る。</p> <p>② 教育相談やQ-Uなどを活用して児童理解を図るとともに、自己肯定感もてる学級経営や分かる授業を展開する。</p> <p>③ 週1回の打合せにおいて、必要に応じて児童指導に係る情報交換をして共通理解を図る。</p> | <p>【達成状況】</p> <p>教職員100%</p> <p>・昨年度に引き続き、指標を大きく上回った。特別支援教育コーディネーターを中心に組織的・計画的に児童一人一人のニーズに合わせた適切な支援を行うことができた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・職員間で児童に関する情報の共通認識を図る機会を積極的に設け、個別最適な学びが図られるように、全教職員が連携していく。</p> |

| | | | |
|-------------------------------------|---|--|--|
| <p>3- (2) いじめ・不登校対策の充実</p> | <p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 保護者の肯定的回答 85%以上</p> | <p>① 児童指導に係る研修や校内支援委員会を活用して情報収集・情報共有・共通理解を図る。 ② 教育相談やQ-Uなどを活用して児童理解を図るとともに、自己肯定感がもてる学級経営や分かる授業を展開する。 ③ 週1回の打合せにおいて、必要に応じて児童指導に係る情報交換をして共通理解を図る。</p> | <p>【達成状況】 保護者 76.0% ・昨年度より9.4ポイント下がり、指標を大きく下回った。児童の抱えている不安や悩みが解決されておらず、保護者が学校の対応に不安を感じている可能性がある。また、学校で実施している「いじめ防止」に関する取組が保護者まで十分に伝わっていない状況も考えられる。 【次年度の方針】 ・いじめ防止に関する学級指導を日頃から徹底するとともに、年間2回のいじめゼロ強調月間などを活用して児童の意識を高めていく。いじめ防止に関する職員研修を充実させるとともに、校内の様々な取組を学級懇談会や学校HPなどで保護者に伝えていく。</p> |
| | <p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 児童の肯定的回答 85%以上</p> | <p>① 児童指導に係る校内研修などから、情報収集・情報共有・共通理解を図るとともに、早期発見・早期対応を図る。 ② 不登校とならないための魅力ある学校づくりを進めるとともに、不登校児童に対するきめ細かく柔軟な対応を行う。</p> | <p>【達成状況】 児童 97.5% ・指標を達成し、児童・保護者の評価も昨年度を上回った。不登校対策委員会やケース会議、打ち合わせを通じて、要配慮児童の情報共有等を効果的に行うことができた。 【次年度の方針】 ・児童が協力して楽しく交流できる場や学校行事を充実させていく。教育相談を実施したり児童の情報共有の場を設けたりしながら、児童理解に努めていく。</p> |
| <p>3- (3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実</p> | <p>A13○学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上 地域の肯定的回答 85%以上</p> | <p>① 児童が「明るく楽しい生き生きとした学校生活」を送れるよう日頃から認め励ますなどの支援や援助をし、教師と児童との間に望ましい親和的な人間関係を育てる。 ② 教育相談や日常の傾聴を通して児童の悩みに寄り添い、問題早期の発見・早期対応及び心のケアに努める。</p> | <p>【達成状況】 教職員 100% 地域 100% ・指標を大きく上回り、児童・保護者の評価も昨年度を上回った。教育相談等を活用して、児童が抱える不安や困り感を早期に把握し、対応することができた。 【次年度の方針】 ・学級活動や、学校行事、日ごとの生活の中で、全職員が児童の些細な変化やよさを見逃さず、積極的に認め励ます言葉掛けを行う。また、授業においては、その時間でできるようになったことや、分かったこと等から、自身の成長や自己有用感を感じられるように支援する。</p> |
| <p>3- (4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化</p> | <p>A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 児童の肯定的回答 85%以上</p> | <p>① 一人一人の興味・関心や能力を的確に把握し、体験的学習を取り入れながら、指導と支援の工夫に努める。 ② ICT (一人一台端末等)の積極的な活用、国語・算数におけるT・Tや少人数指導(習熟度別学習)等で「楽しくわかる授業」を推進していく。 ③ 「はっきり・じっくり・すっきり」の宇都宮モデルプランに基づき授業を展開する。</p> | <p>【達成状況】 児童 97.2% ・指標を大きく上回った。学習指導主任を中心に実施してきた各種学力向上策の成果と思われる。保護者の評価も昨年度を上回ってきており、引き続き、家庭学習の習慣化にも注力していく。 【次年度の方針】 ・宇都宮モデルに基づいた授業デザインに加え、児童の学ぶ様子を受けて、個に応じた指導の改善を図るなどしながら、教職員の授業力向上を目指していく。</p> |
| <p>4- (1) 教職員の資質・能力の向上</p> | | | |

| | | | |
|---|--|---|--|
| <p>4- (2) チーム力の 向上</p> | <p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上</p> | <p>① 校内の様々な職種の特性を生かして協力し、多角的な解決策を検討し取り組んでいく。 ② それぞれの専門性を生かしチーム学校で対応していく。具体的な協働の在り方を研修し、実践していく。</p> | <p>【達成状況】 教職員 100% ・指標を大きく上回った。職場全体に年齢や立場を問わず、誰もが自分の考えを言える雰囲気があり、組織として柔軟に即時対応することができている。 【次年度の方針】 ・引き続き職員同士の情報交換を密にして、校内の様々な課題や児童について共有し、チーム学校で協力しながら業務に取り組んでいく。</p> |
| <p>4- (3) 学校における 働き方改革の 推進</p> | <p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上</p> | <p>① 行事・活動の起案時に目的を明確にした上で、業務の効率化を意識した計画とする。 ② ミライムの出・退勤時刻管理を活用し、勤務時間を意識した働き方への意識改革を図る。</p> | <p>【達成状況】 教職員 100% ・昨年度同様、教職員の評価は100%であった。 【次年度の方針】 ・引き続き全職員が業務の効率化を意識し、効率化を図ることができるアイデアがあれば職員同士で共有する。</p> |
| <p>5- (1) 全市的な学校 運営・教育活動の 充実</p> | <p>A17〇学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 児童の肯定的回答 80%以上</p> | <p>① 地域学校園であいさつ運動を定期的に実施することで中学生との交流を深める。 ② 地域学校園内での小中乗り入れ授業や分科会を通して小・中教職員間の勉強会や情報交換を積極的に実施していく。</p> | <p>【達成状況】 児童 89.5% ・指標を大きく上回った。教職員・保護者・地域の評価も全て昨年度を上回る結果となった。 【次年度の方針】 ・引き続きあいさつ運動を行うとともに運動会などの行事で中学生ボランティアを募集するなどして、さらに学校園内の交流を深める機会を確保する。</p> |
| <p>5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進</p> | <p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 保護者の肯定的回答 85%以上 地域の肯定的回答 85%以上</p> | <p>① PTA・安全パトロール隊(自治会)・地域の見守り活動と協力し、児童の登下校の安全に努める。 ② 読み聞かせボランティアをはじめ、地域ボランティア活動を積極的に推進し、児童の教育活動の充実に努める。 ③ 企業・地域の施設や人材を活用した学習や体験活動の充実に努める。</p> | <p>【達成状況】 保護者 90.1% 地域 100% ・指標を大きく上回った。特に地域住民の評価は21.4ポイント上回る結果となった。学校運営協議会を通して、各種教育活動や学校運営に対する理解が深まったと思われる。 【次年度の方針】 ・地域ボランティアと学校が関わる機会を増やし、活動の様子をHPやさくら連絡網を利用して積極的に発信していく。また、企業の出前授業等を積極的に活用し、体験活動を充実させていく。</p> |
| <p>6- (1) 安全で快適な 学校施設 整備の推進</p> | <p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 保護者の肯定的回答 80%以上 地域の肯定的回答 80%以上</p> | <p>① 施設の設定備点検を実施し、必要な場合には、補修・修繕を迅速に行う。普段の清掃では行き届かない個所の環境整備を計画的に行う。 ② 校内の空きスペースや掲示場所を有効に活用し、環境美化や情操教育に努める。</p> | <p>【達成状況】 保護者 89.2% 地域住民 100% ・指標を上回った。学校業務員を中心に日頃から児童の安全を第一に考え、迅速かつ丁寧に環境整備や補修・修繕に取り組んだ成果と思われる。 【次年度の方針】 ・校内安全点検を適切に実施し、児童や保護者、地域住民が安全に利用できるよう、引き続き学校業務員や学校機動班、環境整備ボランティアと協力して施設設備の整備や環境美化に努める。</p> |

| | | | |
|-------------------------------|--|--|---|
| <p>6-(2) 学校のデジタル化推進</p> | <p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上</p> | <p>① デジタル機器を活用した分かる授業を展開するため、設備の充実を図る。 ② 1人1台端末でclassroomやスマイルドリルを使った効果的な授業づくりの推進に努める。</p> | <p>【達成状況】 教職員 100% ・昨年に引き続き、指標を大きく上回った。ICT機器やタブレットを効果的に活用することができた。 【次年度の方針】 ・引き続き、デジタル教材に関する校内研修等を通して、職員のスキル向上を図っていく。</p> |
| <p>小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等</p> | <p>B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 保護者の肯定的回答 85%以上</p> | <p>① 児童・地域・保護者が協力し合い、朝のあいさつ運動を定期的(6月・10月)に行う。また、代表委員を中心とした児童有志によるあいさつ運動を行い、児童の意識を高める。 ② あいさつ運動の期間に、道徳や特別活動の時間で礼儀の授業を行い、児童の意識を高める。 ③ あいさつ運動や普段のあいさつの様子を学校だよりやHPで発信したり学級懇談会などで伝えたりし、児童の頑張りを家庭でもフィードバックしてもらい、あいさつへの意識をより高めるようにする。</p> | <p>【達成状況】 保護者 79.7% ・指標を大きく下回った。校内でのあいさつは定着しつつあるが、校外でのあいさつになると意識が低い傾向にある。登下校時に保護者や地域ボランティアへのあいさつが活発にされていない実態があると思われる。 【次年度の方針】 ・あいさつ運動の期間だけでなく、常時、児童への励ましを行ったり、振り返りカードを適宜活用したりする。児童会を中心としてあいさつの意識を高めることにつながる取組について話し合い、話し合ったことを実践していく。</p> |
| <p>小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等</p> | <p>B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 児童の肯定的回答 85%以上</p> | <p>① 「よい子の一日(きまり)」「遊びのきまり」や生活目標の周知徹底を図ることで、規範意識を高め、けじめのある行動がとれるようにする。 ② 人権教育や道徳の授業、運動会・校外学習等の学校行事の活動を通して、集団の一員としての自覚を高めていく。</p> | <p>【達成状況】 児童 89.4% ・指標を上回ったが、規律の徹底については、適宜、職員間で情報共有・共通理解を図り、統一感のある指導を目指していく必要がある。 【次年度の方針】 ・規範意識を高め、けじめのある行動がとれるように、生活目標の意識付けなどを朝の会や帰りの会等で行い、教師の声かけと並行しながら指導に生かす。</p> |
| <p>小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等</p> | <p>B3 児童は、給食時のマナーを意識し、守るよう努めている。 【数値指標】 児童の肯定的回答 85%以上</p> | <p>① 食事前のマナーとして、手洗い、ランチマットの準備、静かに配膳を待つなどの習慣を身に付けさせる。 ② 「いただきます。」「ごちそうさま。」のあいさつを感謝の気持ちを持って行う意識を高める。</p> | <p>【達成状況】 児童 91.5% ・指標を大きく上回り、昨年度とほぼ同様の数値であった。教職員の評価は8.7ポイント改善した。 【次年度の方針】 ・食育だよりで家庭での食事のマナーに関しての啓発を行うとともに、校内での食事のマナー週間を引き続き実施し、児童の意識をより高めていく。</p> |
| <p>小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等</p> | <p>B4 児童は、本に親しみもち、進んで読書している。 【数値指標】 児童の肯定的回答 80%以上 保護者の肯定的回答 80%以上</p> | <p>① いろいろな分類の本を読めるように読書カードを工夫する。 ② 読み聞かせボランティアを活用し読書活動を充実させる。 ③ 「ぜひ読み」を家庭へ知らせ、読書に親しむ環境づくりをする。 ④ 市立図書館との連携等で積極的に学習に必要な本を収集し情報センターとしての機能を強化する。</p> | <p>【達成状況】 児童 83.0% 保護者 93.2% ・指標を上回った。司書が中心となり、読書に関する掲示物を工夫したり、クラスルーム等を活用して児童の読書意欲を喚起したりしたことで、読書活動が充実した。 【次年度の方針】 ・市立図書館の活用や、司書との連携を通して、授業を充実させていく。 ・図書室でのイベント等をさらに充実させていくことで、児童の読書意欲を高めていけるようにする。</p> |

〔総合的な評価〕 ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印

- ・ 今年度は、肯定回答率が指標を上回り良好と考えられる項目が全31項目中28項目であった。学校経営方針に基づく各種教育活動の展開が適切に行われたものとする。昨年度、唯一指標を下回り、課題と捉えていたA5「自分のよさ・協力は、児童の肯定率は87.3% (+2.5) となった。引き続き、児童の自己有用感を高めるため、「自分のよさの実感」「他者とのかわり」等を意識しながら学校全体で取り組んでいく。

1. 成果（強み）

① 安全・安心な教育環境

○児童の項目において、A11「いじめが許されない行為であることを指導している（98.2%）」、A12「不登校を生まない学級経営（97.5%）」、A13「一人一人が大切にされ、活気がある（96.1%）」と、非常に高い肯定率を示しており、学校が多くの児童にとって心理的安全性の高い場所になっている。

② 教職員の連帯感と意欲

教職員の項目においては、100%または95%以上の高い肯定率を維持しており、校長の学校経営方針の浸透と教職員間のチームワークの良さがうかがえる。教職員は協力し合う雰囲気があり、組織として柔軟に即時対応することができている。

③ 学習指導への手応え

A14「わかる授業やきめ細かな指導」において、児童生徒（97.2%）、教職員（100%）、保護者（90.1%）と、いずれの立場からも高い評価を得た。日々の授業実践・改善の取組が、三者に肯定的に捉えられている。

2. 課題（弱み）

① 国際理解・郷土愛への意識低下

下記の項目で昨年度（R6）より数値が有意に低下したので、今後、課題意識をもって改善を図っていく。

- ・ A6（英語）児童 78.8% (-6.3) と全体の中で最も低い。ALT（外国語指導助手）との更なる連携強化が必要である。
- ・ A7（宇都宮の良さ）児童（-5.3）、保護者（-7.1）と低下しており、郷土理解への関心が薄れている傾向にある。

② 保護者評価の低下（乖離の発生）

○一部の項目において、教職員・児童の評価は高いものの、保護者の評価が下がっている「認識のズレ」が見られる。

・ A11（いじめ指導）児童は98.2%と高評価であるが、保護者は76.0% (-9.4) と大きく低下した。学校側の指導が保護者へ十分に伝わっていない、あるいは家庭から見て不安が残る事象があった可能性がある。

・ A1（主体的な学習）保護者の肯定率が79.0% (-7.1) と低下しており、家庭学習や授業参観等を通じて児童の学習に対する「主体性」が十分に感じられていない可能性がある。

③ 児童・保護者の健康・安全への意識低下

○A4（健康や安全に気を付けて生活）児童 86.6% (-5.6）、保護者 89.1% (-5.3) と双方が有意に低下した。また、市の平均との比較では児童の項目において（-6.1）と最も差が大きく喫緊の課題といえる。今後、生活習慣や安全面での自己管理について、改めて家庭・地域と連携しながら指導の重点を置く必要がある。

7 学校関係者評価

- ・ 今年度の結果は評価できるものである。取組状況もすばらしいので継続してほしい。
- ・ A13「学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。」の児童の評価が昨年度より向上したことは良かった。
- ・ 児童の挨拶について、地域においては七夕飾りや夏祭りなどの行事での交流から、子供たちから進んで声をかけてくれるようになったと感じている。
- ・ あいさつ運動を実施するときは、その場に多くの地域の方にも参加いただき展開されると地域とのコミュニケーションがとれて良いと思う。
- ・ 児童生徒は前年比マイナスが多く、一方で教職員は大きくプラスの傾向が見受けられるので、「児童・生徒は」が主語の項目については、もっと教職員が「みんな良くできているよ」と伝えることが必要ではないか。自己肯定感の向上にもつながると思う。
- ・ コミュニケーション力が重要。人と人とが話す機会が多いほど社会性が身に付き、挨拶も自然とできるようになると思う。
- ・ いじめにつながる可能性のある行動は、みんなで話し合えるようなオープンな学校になってほしい。
- ・ お父さん方の協力や情報が少ない。お父さんが学校の出来事を知らないケースが多いと感じる。
- ・ 保護者の評価が低い項目については、保護者への情報伝達ができていることが原因ではないか。子供と親の会話が少なくなっていることもあるのではないか。
- ・ A6「英語でコミュニケーション」については、「英語であいさつしようデー」などの取組を積極的に実施してはどうか。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印

全体的には、昨年度との比較等において多少の数値の変化はあるものの概ね良好との評価をいただくことができました。学校としての自己評価や保護者・学校運営協議会の皆様から寄せられたご意見・ご提案を真摯に受け止め、次年度の学校運営・各種教育活動に生かしていきたい。

「伝える」広報活動の強化

教職員の自己評価（100%）と保護者評価（76～80%台）に差がある項目が目立った。学校が「取り組んでいる」事実を、より具体的にエピソード等を交えて個人懇談や学級懇談会時を効果的に活用して伝達するとともに、引き続き、学校だよりやHP等で保護者への可視化・共有を図っていく。

体験を通じた学びの再構築

A6（英語）、A7（地域）、A9（SDGs）といった「社会とのつながり」に関する項目の低下は、座学中心の学びに陥っているサインとも考えられる。積極的に地域のゲストティーチャーを招いたり、実社会の課題を解決したりするような、児童にとってより「体験的な学び」の充実を目指していく。

「主体性」の定義の共有

A1（主体的な学習）やA3（粘り強い取り組み）の保護者評価を上げるためには、単に「自分でやる」だけでなく、どのような状態を「主体的」と捉えるのか、学校の基準や考え方を家庭学習に係る配付物等を通して保護者と共有していく。

自己有用感・自己肯定感を高める「承認」と「声掛け」の強化

教職員の評価が高い一方で、児童自身の自己評価が控えめである傾向を改善していく必要がある。

- ・ **ポジティブなフィードバックの徹底**：教職員が児童の良さを具体的に言葉にして伝えていく機会を意図的に増やし、「自分たちはできる」という自信を育ていく。
- ・ **「いきいきとした学校づくり」の継続**：向上傾向にある学校の雰囲気を持続し、児童一人一人が尊重されていると実感できる環境づくりを全職員で更に推進していく。

地域と一体となったコミュニケーションの活性化

行事を通じた良好な関係を日常的な交流へと広げていく。

「地域参画型」の行事・取組の展開：学校内だけでなく、地域の方々を巻き込んだあいさつ運動や奉仕活動などを企画し、地域の大人と子供との自然な対話機会を創出していく。

家庭（特に父親層）への情報発信の最適化

父親向けの情報提供の工夫：従来の連絡手段に加え、多忙な父親層でも学校の様子を把握しやすい情報発信（Webサイトの活用や動画配信など）を検討していく。

オープンで風通しの良い組織文化の醸成

対話による問題解決の習慣化：いじめに繋がる兆候を早期に察知し、児童・教職員・保護者がオープンに話し合える「心理的安全性の高い」場づくりを推進していく。